つどい

楽しい宴を満喫 年齢忘れ童心に

秋中14日会

平成25年度「秋中14日会」が、東京・新宿のホテルセンチュリーで4月14日開催された。

私たちは昭和21、22年旧制秋田中学卒の現在、齢83歳の同期の桜で、在学時300人だったのが、現在では約3割の生存者となった。出席者は毎年減少し、今年は首都圏を中心に15人の参加者で、幹事役は秋田市土崎地区の汀友会が担当した。

司会役は佐藤菊夫、乾杯の音頭は野口力、会計係が舘山俊治、会場設営・写真撮影は金沢祐吉が担当し、年齢を忘れて童心に返り、和気あいあい和やかで楽しい宴となった。

秋田からは佐藤鉄男同窓会幹事が上京し、秋高創立140周年記念式典のPRと祝賀会への勧誘に熱弁をふるい、大いにムードが湧き上がった。それに加え、指揮者佐藤菊夫が編曲した小田島樹人先生の作品から15曲を選曲し、『管弦楽とソプラノ独唱、混声合唱による童謡連曲』のDVDを鑑賞、一同大喝采を贈った。最後に校歌「天上はるかに」を高唱し、次回の再会を約束して散会となった。

（佐藤菊夫　記）

賛助出演に向け 母校で応援練習

応援団OB会・紫紺の会

日中、森岳で行ったゴルフコンペの表彰を兼ねた懇親会を、8月7日秋田市の協働大町ビルで開催しました。懇親会のみの参加者と合わせ12人が出席しました。

昭和40年代前半卒業のメンバーが中心になって立ち上げた会ですが、今回は四、五十代の〝若手〟も参加。母校創立140周年祝賀会への賛助出演に向けて意気を揚げました。

8月14日には有志が母校に集合し、校歌と校友会歌の練習会を行いました。卒業から数十年のブランクを感じさせない動きや声を披露し合い、「9月1日」の役割分担等を確認しました。

（昭和55卒　保坂尚吾　記）

酒酌み交わし 79人の大盛会

42会同期会

平成25年9月7日、昭和42年卒同期会「42会」が協働大町ビルで開催された。毎年9月の第一土曜日を定例とする！　と決めてから3年目。折り悪く土崎中学校卒業50周年同期会と重なり参加者数が危ぶまれたが、何と昨年より7人多い79人の参加となった。

恒例の記念撮影の後、池田元応援団長の現役さながらの指揮のもと校歌斉唱（5番まで）。恩師武田武志先生のご挨拶に続き、今年初めて高知県から参加した千葉徹君のスピーチで乾杯。千葉君は病気を患い奥様が付き添っての参加であった。

65歳を迎えたのに一向に酒量は落ちる気配もなく、あちこちで話の輪が広がり、大盛会であった。最後に、全員で校友会歌を合唱、それではまだ物足りないと再び校歌を大合唱し、来年9月6日の再会を誓い解散した。

（鎌田　壽　記）

昼は体育、夜は賑やかに懇親会

32会総会

平成25年度総会が9月30日、メトロポリタン秋田において34人の出席者（県外出席者6人）で開催されました。日本政府認定の後期高齢者の仲間入りをし、それぞれ元気よく参集しました。

日中は恒例により、体育の時間として太平山カントリークラブで白球を追いかけ、エージシューターが出現するなど元気な75歳ぶりを披露しました。

総会は卒業以来初、住居不明者名簿から復活した藤田潤平氏の乾杯で、例年どおり明るく楽しい賑やかな懇親会となりました。

中締めは副会長佐々木信吾氏の「来年は喜寿である！必ず出席されたい！」の音頭で校友会歌を大合唱‼　ホテル内の2次会へと移動しました。

（國安志郎　記）